

エコ・たまがわ

多摩川エコミュージアム・二ヶ領せせらぎ館 - 情報誌

編集:印刷 特定非営利活動法人

多摩川エコミュージアム

〔代表理事・北島 信夫〕

連絡先:二ヶ領せせらぎ館

〒214-0021 多摩区宿河原1-5-1

Tel/Fax 044-900-8386

[http://www.](http://www.seseragikan.com)

seseragikan.com

No.

74

稲毛米の穀倉地帯

竣工400年の二ヶ領用水①



【写真】まだ頑張っている稲田。多摩区宿河原6丁目で。横を南武線電車が通る

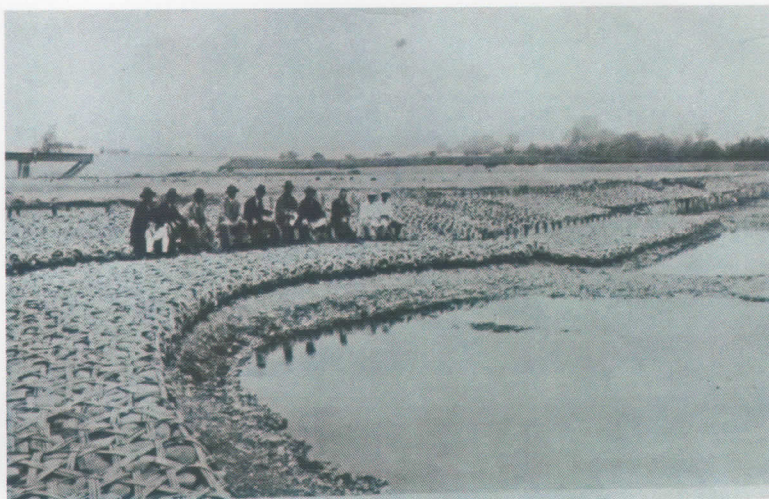
□南武線の車窓に飛び込んできた黄金する稲穂の光景。「親の代から受け継いできた田んぼを守っていきいたい。息子にも継がせたい」と、刈り取り作業に余念のない芹澤幸蔵さんは語ってくれた。

□例年一番苦勞するのは水の確保だという。用水は、二ヶ領本線からの分水堀、五ヶ村堀からくるが、途中の民家で、庭木や道路への散水に使うので、流れが少なくなるからだ。猛暑が響き、今年是不作とのこと。穂が短く、それだけでも米粒が少ないという。もはや高津区以南の市域からは、水田は姿を消した。

□上河原堰と宿河原堰(右下写真)の両堰で取水した二ヶ領用水は、かつて広がる水田(左下写真)を潤し、稲毛米の穀倉地帯を産み出した。その稲毛米は、鮎米とし珍重され、新嘗祭初穂の献穀田にも選ばれた。



広がる水田。加瀬山から鹿島田方面を望む＝大正時代
『わがまちさいわい物語』から)



旧宿河原堰＝竹籠に河原石を詰めた蛇籠を積み重ねて堰にした。
『稲毛川崎二ヶ領用水事績』から) [写真と文・長島 保]